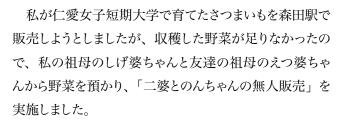
社会的活動報告

<mark>二婆とのんちゃんの無人販売</mark>

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 2回生 木原 望実



野菜の値段がわかるようにポスターを制作しました。(図 1)緑・黒・白の3色と決めて作成しました。二婆との んちゃんの似顔絵のイラストを描いて生産者が分かるよう 工夫しました。

[販売期間] 2022年10月7日(金)から10月31日(月)[販売場所] 森田駅内の夢ギャラリー森田(図2)1週間ごとに新しい野菜を置きました。

[販売した野菜 単価 個数] (図3)

- ・さつまいも (@30円)6コ
- ・ドデカさつまいも (@30円)10コ
- ・じゃがいも (@10円)42コ
- ・ピーマン (@20円)172コ
- ・たまねぎ (@20円)10コ
- ・かぼちゃ (@50円)1コ
- ・にんにく (@200円)7コ
- ・なす (@30円)9コ
- ・ヤマボウシの苗 (@150円)1コ

無人販売で集まった金額は2038円でした。6410円売上があるはずでしたが、現金差が4372円発生しました。現金差が発生した原因は、①ポスターの金額が見にくかった。②お金入れに蓋がない箱だったからお金がとられた。の2つだと考えました。思ってた以上の売上はありませんでしたが、無人販売は家では食べきれない野菜を販売できたので、他者が消費できないものを別の人が消費する事になり「12つくる責任つかう責任」SDGsの考えに繋がっています。

森田駅でのこの企画は電車を利用する方に別の目的が 増え、森田駅が普段より賑わっていました。

えつ婆ちゃんとの交流から「人から良いことをされると何かお返しをしたくなる」という考え方を学びました。またえつ婆ちゃんとは、顔見知りではあったものの、今回をきっかけにお話しできて楽しかったです。しげ婆ちゃんとも話す頻度が多くなり、無人販売を通して、しげ婆ちゃんやえつ婆ちゃんの暮らしは「つくる」側の生活ということが分かりました。祖母たちは野菜を栽培し、収穫した野菜で料理をします。今の私は「買う」側の生活をしていますが、これからは「つくる」側の生活もしていきたいと思いました。



(図1) ポスター



(図2) 二婆とのんちゃんの無人販売



(図3) 販売した野菜(一部)